

プロロジス、愛知県東海市にて まちづくりと一体となる物流施設開発をスタート ～東海太田川駅西土地区画整理事業に参画～



「プロロジス東海太田川プロジェクト」として計画中の物流施設完成イメージパース

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役社長:山田 御酒)は、11月22日に、本事業の施行者である東海太田川駅西土地区画整理組合の設立総会が開催されたことを機に、開発に向けたプロジェクトをスタートさせることを発表しました。なお、プロロジスは愛知県東海市で進められている「東海太田川駅西土地区画整理事業」において、まちの将来像を早期から見据え、土地区画整理組合、東海市、業務代行者と共にまちづくりを進めていく事業提案企業として選定されています。

■ 土地区画整理事業概要・開発予定地

「東海太田川駅西土地区画整理事業」は、愛知県東海市の中核駅である名鉄常滑線「太田川駅」の玄関口に位置するエリアに、約34.4haの区域を整備する事業です。地元地権者で構成される土地区画整理組合が、広域交流機能、居住機能、工業機能、物流機能等の複合的な機能を導入するまちづくり事業を施行中です。土地区画整理組合は、「テクテク Tokai(TTT)」をコンセプトとして、東海市が培ってきたモノづくりの伝統を活かしつつ多様な都市機能を配置し、「歩いて楽しいまち、にぎわい溢れるまち」の形成を目指しています。

同土地区画整理事業の施行区域は、伊勢湾岸自動車道・名古屋高速4号東海線が接続する「東海JCT」から約4.3kmの地点に立地しています。開発区域西側の「西知多道路」は、名古屋中心部と中部国際空港をつなぐ地域高規格道路で、2027年の全線開通に向け整備計画が進行しています。今回の土地区画整理事業の施行に合わせて、西知多道路には土地区画整理事業区域に隣接する位置にICの新設(仮称「大田IC」)が予定されています。

開発予定地は名古屋市中心部から約 15 kmの距離に位置し、名古屋高速を利用して 30 分で到達可能です。また、伊勢湾岸道路から新東名・新名神を利用することで、東西への広域配送も可能な物流好適地です。西知多道路の全線開通時には、中部国際空港へ約 20 分で到達可能です。

■ プロジェクト計画概要

プロロジスは、土地区画整理事業区域内の「産業物流地区」の約 71,000 m²の敷地に、5 階建、延床面積約 164,000 m²のマルチテナント型物流施設を開発する計画です。ダブルランプウェイにより、一方通行の車両動線を確保し、大型車両が各階にアクセス可能な計画とします。入居企業の事業継続性にも配慮し、当社の最新鋭のマルチテナント型物流施設の仕様に基づいた防災設備や就業環境を整える予定です。

プロロジスは、当プロジェクトにおいて、地域の課題解決に寄与するまちづくりに、土地区画整理組合、東海市、他の事業提案企業等と共に取り組み、地域の賑わいを生み出す広場の整備など、開発エリア内に新たな機能や仕組みの導入を検討しています。



プロジェクト計画概要

名 称	プロロジス東海太田川プロジェクト
開 発 予 定 地	愛知県東海市大田町 「東海太田川駅西土地区画整理事業」地内
敷 地 面 積 (予 定)	約 71,000 m ²
延 床 面 積 (予 定)	約 164,000 m ²

*本リリースに掲載されているパースはイメージであり、今後変更となる可能性があります。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://f.msgs.jp/webapp/form/11859_dor_73/index.do